

## 8-4-18 道路専門委員会

### 1. 主な活動の記録

#### (1) 道路専門委員会の開催

委員会開催回数：9回（4月～1月）

#### (2) 対外活動

##### a) RCCM 登録更新教材の更新

「道路」及び「トンネル」について改訂作業を行った。「道路」に関しては章立ての見直し、「トンネル」については軽微な修正を実施した。

##### b) 視察（支部との連携強化）

道路交通技術に関する施設の現地での知見・知識取得や支部との交流を目的とした視察を行った。今年度は、「まちづくりと一体となるラウンドアバウトや無電柱化の整備手法の知見の得る」を目的とし、昨年度“平成30年7月豪雨”の影響で実施できなかった四国地方で、四国支部のご協力により、愛媛県松山市、松前町や高知県梶原町等で、地域特性を生かしたラウンドアバウト、観光地における無電柱化、道路空間の再配分によるまちづくりを視察した。

##### c) WG 活動

当委員会では、以下の主な5つのWGの活動記録について記述する。

##### ① 設計システム WG

委員会社の若手技術者が集まり、「性能照査型道路計画・設計」に対して、これまでの研究を継続して活動を行った。昨年度、当WGも関与して交通工学研究会より発刊された「機能階層型道路ネットワークのためのガイドライン(案)」をブラッシュアップするため、事例対象エリアを設定し、検討を継続した。

##### ② 品質向上 WG

過年度から継続し、設計ミス防止、品質向上を目指した「品質セミナー」の実施に向けてのエラーの事例集収集、作成及びセミナー講師として参画した。

##### ③ 勉強会 WG

令和元年12月5日、道路専門委員会講習会「道路整備計画とストック効果」を開催した（参加者77名）。

- ・ 講師：首都大学東京 石倉 智樹 准教授
- ・ 目的：道路整備計画とストック効果に関する設計技術への理解を深めること。
- ・ 内容：道路整備事業により社会資本ストックとして整備された道路が機能することによって、社会・経済に対して継続的にもたらされる「ストック効果」は、近年、道路をはじめとする社会基盤整備事業の計画において、これを明示することが強く求められるようになってきている。一方で、ストック効果の概念は曖昧な部分もあり、考え方や計測方法に混乱を生じさせている場面がある。当該講習会では、道路整備計画とストック効果について、より一層の理解を深め、業務に活かすための知識および技術が紹介された。

#### ④ 対外活動 WG

NEXCO 総研と設計歩掛について、首都高速道路(株)とは歩掛、仕様書、大規模更新等について意見交換を行った。

上記の他、働き方改革による就業環境改善についても意見交換を行った。

#### ⑤ 無電柱化 WG

無電柱化WGは今年度より道路専門委員会の傘下から独立したWGとなったが、昨年度からの継続として、国土交通省 無電柱化推進部会コンサルWGに参加し、低コスト化に向けた技術開発を推進した。

#### d) CIM・i-Construction への取り組み

国交省、及び国土地理院の活動に参加した。

### 2. 次年度の活動について

今年度の活動を継続実施するとともに道路、トンネルを取り巻く課題に取り組む。

(道路専門委員会委員長 石村 佳之)